

## 1 いちご

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
うどんこ病	—	少	・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。（ / - ）
ハダニ類	—	やや少	・巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低かった。（ / - ）
コナジラミ類	—	やや多	・巡回調査の結果、寄生株率は平年より高かった。（ / + ）

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：早くなる要因 (空欄)：該当せず  
発生量・・・(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

より詳しい内容は、下記HPでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第9号の発行日は、11月19日(金)の予定です。

## ー11月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:10月12日(本ぽ)

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	少

#### 予報の根拠

(1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや少

#### 予報の根拠

(1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低かった。

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	やや多

#### 予報の根拠

(1)巡回調査の結果、寄生株率は平年より高かった。

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- 炭疽病、萎黄病の発生により、株の植え替えを行っている園地が複数見られている。今後の発生に注意し、罹病株は見つけ次第速やかに抜き取り、適切に処分する。
- 草勢低下はうどんこ病の発生を、過繁茂は灰色かび病の発生を助長するとともに、薬剤の散布ムラが生じやすくなり、その他の病害虫に対しても防除効果の低下を招くので、適切な肥培管理に留意する。
- いちごの農薬使用回数については、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までをカウントする。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的なローテーションを行う。  
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- 薬剤散布を行う場合は、訪花昆虫(ミツバチ等)への影響日数に注意する。
- 気門封鎖型薬剤や天敵製剤等、IPMに関する防除については、下記の普及に移す技術を参照。  
※普及に移す技術第93号普及技術7「大規模施設における促成イチゴ栽培のIPM体系」  
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/685135.pdf>  
※普及に移す技術第82号普及技術9「促成イチゴ栽培でのミヤコカブリダニを基幹としたハダニ類の防除体系」  
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69958.pdf>

※普及に移す技術第94号参考資料16「促成イチゴにおけるUV-B電球形蛍光灯と反射資材の併用によるハダニ類抑制効果」<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/735203.pdf>

## (2)うどんこ病

- ・多発すると防除が困難になり、収量にも影響するので、発生初期に防除を実施する。
- ・各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果及び残効性については、下記を参照。  
※普及に移す技術第93号参考資料11「各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果及び残効性」  
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/685977.pdf>

## (3)ハダニ類

- ・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り発生初期に防除を実施する。
- ・発生初期は下葉に多く寄生しているので、下葉の除去を行ってから薬剤散布を行うと効果が高くなる。
- ・天敵(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ等)を放飼する際には放飼前に気門封鎖型薬剤や天敵類に影響が少ない薬剤を散布し、ハダニ類の密度を極力低下させてから放飼する。

## (4)コナジラミ類

- ・巡回調査の結果、育苗ほからの持ち込みにより本ほで多発している園地が見られている。
- ・多発すると排泄物(甘露)によるすす病を発生させるので、よくほ場を観察し早期防除に努める。
- ・ラノーテープは多発する前に早めに設置する。草丈に合わせて、3ベッド(畝)毎にテープを展張することで増殖を抑制する効果が発揮される。  
(使用量の目安は10~50m<sup>2</sup>/10a, 10m<sup>2</sup>=テープ200m)
- ・ラノーテープを使用しているほ場でも密度が高い場合は、薬剤散布により適切に防除する。

### — 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)